

ドイツのベルリンにある「森鷗外記念館」の責任者、ベアーテ・ウエーバーさんが、北九州市を訪れ、門司港区のレトロ建築群を視察したり、末吉興一市長と懇談した。ベアーテさんは鷗外の出生地・島根県津和野町にできた鷗外記念館の落成式に出席した後、懇意にしている八幡東区清田、村上五一さん、北九州音楽協会副理事長Ⅱ方で「北九州の休日」を楽しんだ。ベアーテさんが北九州を訪れたのは小倉井筒屋で開かれた「森鷗外展」その人と北九州」以来二年半ぶり。ベアーテさんに開館十一年目を迎えたベルリンの森鷗外記念館の現状などを聞いた。

ベルリンに息づく

森鷗外記念館

開館して11年



ベルリンの森鷗外記念館は、鷗外の『舞姫』に出てくるブランデンブルク門から歩いて十分ほどのルイーゼンシュトラッセにある。鷗外がベルリン時代に下宿していた旧居で、現在はフンボルト大学が管理している。

フンボルト大学が管理

開設されたのは一九八四年十月。鷗外がベルリンに到着した、ちょうど百年後に「森鷗外記念室」として始まった。もともとは東ドイツが管理していたが、ベルリンの壁がなくなつて東西ドイツが統一されたあとは大学が管理、日本学科のユルゲン・ベルント教授が館長を務めていた。館長が一昨年八月に亡くなつたあと、ベルント教授の下で運営に当たっていたベアーテさんが責任者になった。

広さは約十八平方メートル。室内には鷗外のデスマスクや自筆原稿、手紙、『鷗外全集』（全三十八巻）などが飾られ、軍医としてドイツ医学を学ぶ一方で、ドイツの古典派、ロマン派文学を研究した若き日の鷗外をしのぶ場所になっている。

ベアーテさんが「日本でのお父さん」と慕う村上さんが、ベルリンの鷗外記念館を初めて訪ねたのは、東西ドイツが分割されていた時代の昭和六十二年十二月。東ドイツでモーツァルトの歌劇が五つ続けて公演されるのを機に企画されたツアーに参加した時。街で日本より数倍高価なカラーテレビや安っぽい生地洋服を見て生活の貧しさを実感していた時に、鷗外記念館を訪ねて「ホッとさせられた」という。

以下は、村上さんの述懐。「鷗外旧居に入った時も、実のところ、第三者的な気持ちで狭い階段を上つた。そこで小倉旧居の写真を見た時、初めてふるさとと、このベルリンのつながりをひしひしと感じた。激動の中で貧しい人々が日本の文化を大切に守ってくれていたことに対して、感激し、感謝の気持ちでいっぱいになった」



ベルリン森鷗外記念館の銅板のプレート。「近代日本文学の創始者、作家、美術家、『ファウスト』、レッシング、クライスト、ホフマンの翻訳者、森鷗外が1887年から1888年までここに住んだ」と刻まれている

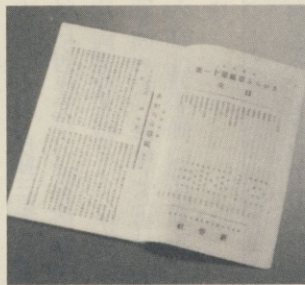
北九州市庁舎そばの森鷗外文学碑前でベアーテ・ウエーバーさん

◎◎ 鷗外の「ドイツ三部作」

鷗外はドイツ留学中に取材したドイツ三部作『舞姫』『うたかたの記』『文づかひ』を書いている。

『舞姫』は明治二十三年、「国民之友」に発表した。ベルリン時代に交際していたエリーゼ・ヴィゲルダが、ヒロインのエリスのモデルという。

『うたかたの記』は同年、「志がら



み草紙』に発表。『写真』、日本人画工、巨勢と、ミュンヘンで出会った少女、マリイとのロマンス物語。

『文づかひ』はドレスデン滞在中、王侯貴族社会に入入りしドイツ留学中、最も華やかな時を過ごした体験に基づく作品。明治二十四年、「新著百種」に掲載された。挿絵は原田直次郎で、小林土官は鷗外、イイダ姫はディーベン城主の娘がモデルといわれている。

北九州の資料大切に



ベルリンにある森鷗外記念館の外観。記念館は2階部分。ここに鷗外は明治20年4月から約2カ月間住んでいた。奇跡的に焼失を免れ、ありし日の鷗外をしのぶ、ドイツでは唯一の建物

ドイツの学術に貢献し、 財団「森鷗外記念館」が設立されました。この財団の基礎資金、25万DMは日本外務省とドイツのシュテファン社から提供されました。

この財団の目的は「フランクフルト・アム・マイン」大学の森鷗外記念館を維持し、その活動を支援することにあります。記念館を維持するために、あなたは2500DMの寄附をされています。寄附のご支援、ご協力を何とお願い申し上げます。寄附金は下記の銀行口座へお振り込みをお願い致します。

Mori Ozaki Gedenk-Stiftung
Luisenpark Universität zu Berlin
Luisenpark Platz 40
D-10585 Berlin (Tel. 030 724 40)
Fax: 030 724 211

Mori Ozaki Gedenkstätte
Luisenparkstr. 39, 10117 Berlin
Telefon und Telefax: 030 724 40 97

森鷗外
記念館

フンボルト大学

ドイツ留学当時の鷗外の写真が入ったフンボルト大学の森鷗外記念館の案内パンフレット

この時、村上さんは北九州関係の資料が少ないのが気になり、帰国後、市教委を訪ね、ベルリンの状況を話したところ、市教委が資料を作り、ベルリンに送ったという。

しかし、ベルリンから資料が届いたとの連絡もなく、やきもきしていたが、ベルリンの壁が崩壊した一カ月後の平成元年十二月、村上さんは、再度ベルリンツアーに参加、記念館を訪れた。ベアータさんが大歓迎してくれ、北九州市教委や北九州森鷗外記念会から

文学書は450冊読む

東大医学部を満十九歳五カ月という史上最年少で卒業したあと、軍医となつた鷗外は二年半後の明治十七年六月にドイツへの留学を命じられた。ライプチヒ、ドレスデン、ミュンヘン、ベルリンの各地で西洋近代医学の權威に師事。陸軍衛生制度調査や軍隊衛生学を研究する傍ら、歴史、文学、美学、哲学に親しんだ。在独三年九カ月の間、精力的に西洋文化の吸収に励み、東洋、西洋の両文化を踏まえた学者としての基礎を固めた。読破した書は文学書だけでも四百五十冊にのぼるといふ。

■鷗外、ドイツでの足跡■

〔明治17年〕

6月7日ドイツ留学を命じられる

8月24日フランス船メンザレー号

で横浜を出港

10月11日ベルリンに到着

10月22日ライプチヒに移り、ライ

プチヒ大学のホフマン教授に師事

送られてきた資料を大切に保管している、と見せてもらった。

北九州から送られた資料の主なもの
は、文学碑拓本、鷗外旧居のリーフレ
ット、文学碑、鷗外橋、広寿山福聚寺、
旧陸軍第12師団司令部正門、常盤橋な
ど鷗外ゆかりの写真、『森鷗外 小倉

日本文化、医学など紹介の場

時代入門』——などである。

ペアーテさんによると、記念館は①鷗外とその作品、その時代でのドイツ語圏での研究を促進する②日本文化、特に日本文学の分析と紹介を体系的に進める③医学の領域でのドイツと日本の関係の研究を進める④映画の上映会や書道、

生け花教室などの活動を通してさまざま
な日本文化や日本精神と出合える活
発な場にする——のが、活動の目的。

しかし、前途は多難なようだ。

ドイツ統一後、記念館の所有者から
「建物を返して欲しい」と言われた。
一時はイタリア料理店に身売りする話



ベルリンの森鷗外記念館の内部（上と左）。
北九州市教委から送られた広寿山福聚寺の写
真を手にするペアーテさん（右下）

〔明治18年〕

2月以降「独文」「日本兵食論」「日本家屋論」を著述

8月、9月、ドイツ第12軍団の演習に参加

10月11日「ドレスデンに移り、ザクセンのロート軍医監に師事

〔明治19年〕

1月「王宮の舞踏会」に出席

3月8日「ミュンヘンに移り、ミュンヘン大学のペッテンコーフェル教授に師事

同時期「画学生、原田直次郎と親交を結ぶ

〔明治20年〕

4月16日「ベルリンに移る

5月「ベルリン大学（現フンボルト大学）コッホ教授の衛生研究所に入る

9月「石黒軍医監に随行し、万国赤十字社同盟第4回総会に出席。日本代表に代わって講演

〔明治21年〕

3月、7月「ロシア近衛軍団に入隊し、軍務医務に従事

7月5日「石黒軍医監とともにベルリンを出発。途中、ロンドンに寄る

9月8日「横浜に帰港

運営苦しく、前途多難

—— 見学者は年4千人



もあつた。この問題は、所有者が記念館

に理解を示してくれ一段落したが、運営するに当たって経済面で大きなカベがあるという。

現在は、フンボルト大学の日本学科の施設として家賃、光熱費、一人分の人件費が出ているが、それ以外に大きな収入の道はない。

財団「森鷗外記念基金」が設立され、日本の外務省とドイツのシェーリング社が基礎資金として二十五万ドイツマルク（約千五百万円）を出資したが、基金そのものが少ないので利子を運営費に回す余裕もないという。

記念館を訪れる人は年間約四千人。

設立当初は東ドイツ時代だったため、ビザを持つ外国人は少なかったが、東西統一後は日本人の見学者も増えた。鷗外が留学していた年ごろと同じ二十代前半の若い人がよく訪れるという。

ペアーテさんは北九州で、門司港のレトロ建築群を視察して、「記念館にも鷗外時代の本物の家具、書棚などの調度類をそろえたくなった。古い物を守り続けたい」と意欲がわいてきた。

末吉市長と懇談した際、「ベルリン—東京（森鷗外記念会）—津和野（森鷗外記念館）—北九州（鷗外旧居、北

九州森鷗外記念会）のネットワークができた。北九州市がドイツと一緒にな

ってできることがあつたらアイデアを出してください。協力しますよ。一人で悩まないで」と言われたことも大きな励みになったという。

ベルリンの記念館ができて十年間は経済面での闘いだったが、ペアーテさんは「これから募金をどんどん集めて鷗外ものの出版、研究活動はもちろん、鷗外時代の調度類、鷗外が使ったトイレ、ふろなども再現して、見学者に喜ばれるような記念館にしたい」と話していた。